

日程（2月23日金曜日出発）

1日目（2/23金）：羽田→デリー

JAL039 HND 11：45→DEL 18：20

デリーに到着後、空港から専用車でデリーのホテルへ。

2日目（2/24土）：デリー---アーグラ（210km/約4時間のドライブ）

専用車でアーグラに向けて出発。アーグラのホテルに到着しチェックイン。

世界の七不思議の1つと称される豪華な霊廟**タージ・マハル**を訪れます。タージ・マハルは、ムガル帝国第5代皇帝シャー・ジャハーンの妃ムムターズ・マハルの墓廟です。総大理石の白亜の廟はインド・イスラム文化の代表的な建築物です。

デリーからアーグラへの遷都に伴い皇帝アクバルが1565年に着工して1573年に完成させ、その後3代の皇帝の居城となった**アーグラ城塞**とムガル帝国の宰相ミールザー・ギヤース・ベグの墓廟イティマド・ウッド・ダウラ霊廟を訪れます。アーグラ泊

3日目（2/25日）：アーグラ---グワリエル---オーチャ（220km/ドライブ約4時間）

朝食後、グワリエルへ向かいます。丘の上に建つ巨大なグワリオール城、シヴァ神とヴィシュニ神の二つの神をまつるサス・バフ寺院、1874年、グワーリヤル藩王ジャヤージー・ラーオ・シンディアが建設し以降、藩王の宮殿として使用されたジャイ・ヴィラーズ宮殿（まだ王様が住んでいる）を訪れます。

その後、デカン高原中央にあるオーチャという小さな街を訪れます。オーチャ泊

4日目（2/26月）：オーチャ---**カジュラホ石窟群**（180km/ドライブ約4時間）

オーチャには小さいながらもムガル帝国の影響を受けた豪華な宮殿や王宮が非常に良い状態で残されています。その景観はまるで中世のヨーロッパのよう。美しき建造物にはイスラムの装飾や当時の王族生活の壁画などが残り、とても見応えのある遺跡群です。ジハンギル・マハル、ラージ・マハル、オーチャのシンボル、チャトゥルブージ寺院を訪れます。

街の横を流れるベトワ川付近にはオーチャのマハラジャ達、ブンデラ王国の王墓群があります。静かな川沿いの慰霊碑（チャトリス）を散策しましょう。

その後、カジュラホに向かいます。カジュラホ泊。

5日目（2/27火）：カジュラホ→デリー

ユネスコ世界遺産に登録されている「カジュラホ石窟群」は、ナガラ様式の建築と、ナーイカ（ヒンズー教神話の女性主人公）や神々の優雅な彫刻で有名です。西暦950年から1050年の間にチャンデーラ王朝によって建てられたこれらの寺院は、神聖な寺院一面にエロティックな性交場面（ミトゥラ像）を描いた彫刻が有名です。このような官能的な彫刻が彫られた理由は定かではありません

ませんが、豊穰祈願や性的結合そのものを神聖化していたなど様々な解釈があります。

カジュラホの遺跡群は東・西・南の3群に分かれており、そのうち西・南の2群がヒンドゥー教、東群はジャイナ教の寺院が残っています。最も人気がありメインとなる大規模な寺院が集中する西群のエリアを中心に見学します。

夕食後、カジュラホ空港に移動、デリーへの国内便に搭乗します。デリー空港からホテルまで専用車で。デリー泊

(SG2932 Khajuraho20:20/New Delhi22:00)

6日目(2/28水)：デリー --- フブリ --- ハンピ (170km/車で約3.3時間)

(6E-5624, Delhi10:30/Hubli13:00)

朝食後、空港へお送りし、フブリ行きの飛行機に搭乗します。フブリ空港から専用車でハンピへ移動します。夕方5時ごろホテルチェックイン、ハンピ泊。

7日目(2/29木)：ハンピ遺跡

「ハンピの建造物群」は14世紀にヴィジャヤナガル王国が築いた王都でした。多くの宮殿やヒンドゥー教寺院が造られ隆盛をきわめます。しかし、1565年のターリコータの戦いでムスリム5王国連合軍に敗れてしまいます。王都は略奪を受け廃墟と化し、王国は遷都を余儀なくされました。現在は40ほどの遺跡が残されています。人々が生活する中に遺跡があり、自然と一体化しています。1986年に世界遺産に登録された遺跡群ですがアクセスが悪いため、観光地化されておらず、まだまだ日本人ツーリストにも馴染みがない遺跡です。私が今回の旅で最も期待し、ぜひとも訪れたい場所です。一日かけてじっくり見学しましょう。ハンピ泊。

8日目(3/1金)：ハンピ --- アイホール --- パッタダカル建築群---バーダミ (170km / 約3.3時間のドライブ)

朝食後、インドのカルナータカ州にある古代および中世の仏教、ヒンズー教、ジャイナ教の史跡であるアイホールへ向かいます。農地と砂岩の丘に囲まれた小さな村の周囲に位置するアイホールは、マラプラバ川渓谷に沿って広がる120を超える石造りの洞窟寺院が中心の遺跡です。その歴史は西暦6世紀から12世紀に遡ります。

パッタダカルには6世紀から8世紀に建てられた9つのヒンドゥー教寺院があります。チャールキヤ朝の王族は「戴冠の都」としてパッタダカルを愛し、この都市に多くの寺院を築きました。現存する9寺院はすべて宇宙の破壊と創造をつかさどるヒンドゥー教のシヴァ神を祀ったもので、これらの遺跡には南インドの王領各地から集められた石工や彫刻家たちの携えてきた経験と技術が集積しています。様式の異なるヒンドゥー教寺院が混在する遺跡であることが評価され、1987年に「パッタダカルの建造物群」としてユネスコ世界遺産に登録されました。

その後、中世ヒンドゥー建築揺籃の地であったバーダミ洞窟寺院を訪れます。バーダミ泊

9 日目 (3/2 土) : バーダミ --- ゴア (290km/約 6 時間のドライブ)

朝食後、ゴアへ向かいます。ゴアのホテルに到着し、チェックインします。その後、自由行動。ゴアの美しいビーチを散策してください。ゴア泊

10 日目(3/3 日): **ゴアの教会群と修道院群**

ゴアの教会群と修道院群はインド南部の港町であるゴアに残るキリスト教の教会と修道院から構成される世界遺産です。16 世紀のゴアはポルトガル領で、ポルトガルの首都リスボンをモデルに作られたこの都市は「東方一の貴婦人」という異名を持つヨーロッパの街並みが広がる美しい都市でした。現在はその街並みはなくなり、教会と修道院だけが、アジアにおけるヨーロッパ建築の痕跡として残されています。ゴアの地はキリスト教の普及に尽力した宣教師フランシスコ・ザビエルの眠る場所です。ザビエルの眠る「**ボム・ジェム聖堂**」が有名です。

まず初めはゴアの美しいビーチを訪ねます。その後、旧ポルトガル植民地の面影が色濃く残っているパナジを訪れます。ポルトガル領インドの首都はオールドゴアでしたがペスト蔓延のため 1843 年に遷都されパナジはゴア州の州都となりました。現在は 1619 年に建造されたパナジ教会、1880 年代に建てられたサン・セバスチャン礼拝堂があります。

11 日目(3/4 月) ゴア --- ムンバイ (フライト)

(AkasaAir QP1371 Goa11:05/Mumbai12:25)

朝食後、空港へお送りし、ムンバイ行きの飛行機に搭乗します。ムンバイのホテルに到着しチェックイン。その後、ムンバイの市内観光をします。ムンバイで最も有名なランドマークの 1 つであるインド門は 1911 年にジョージ 5 世とメアリー王妃がデリー ダルバールを訪問したことを記念して建てられました。

次に、プリンス・オブ・ウェールズ博物館を訪れます。この博物館はこの巨大な建造物は、太陽の光が巨大な大理石のドームに輝くので遠くからでも目立ちます。ここには、インドで最高の貴重な美術コレクションである細密画、古代彫刻、翡翠、中国などが豊富に展示されています。

またムンバイの街が一望に見渡せるマラバルの丘を訪れ景観を楽しみます。

また、世界遺産に指定されている「**ムンバイのビクトリア朝のコロニアル建築とアール・デコの遺産群 (2018 年)**」のいくつか (ボンベイ大学、ボンベイ高等裁判所、クロフォード・マーケット) などを車中見学。

ドービ・ガートと呼ばれる有名な市内の洗濯場、ガンジー記念博物館、ジャイナ教寺院も訪れます。ムンバイ泊

12 日目(3/5 火): **エレファンタ石窟群**

エレファンタ石窟群は、ムンバイ東部約 10 kmの海上に浮かぶエレファンタ島にあるヒンドゥー教石窟寺院です。1987 年、世界遺産に登録されました。インドには他にも石窟群があり、このエレファンタ石窟、アジャンタ石窟群、エローラ石窟群を合わせてインド三大石窟と呼ばれています。

朝食後、午前 8 時にインド門へ向かい、双胴船で**エレファンタ石窟群**へ向かいます。ボートは 09:00

が始発。ムンバイ港をボートで1時間渡ると、美しい緑豊かなエレファンタ島に到着します。石窟寺院は、6~8世紀にかけて造られたといわれていますが、碑文がほぼないために年代の確定は難しいそうです。エレファンタ石窟群には7つの寺院がありますが、状態が良いものは第1窟のみです。そしてこの石窟が最も大きいものです。壁面には古代インドの叙事詩をモチーフにした、多くのレリーフが見られます。

石窟の最奥に、シヴァ神の三面上半身像が壁に彫られています。高さは5.7mあり、ヒンドゥー教美術としての価値が非常に高く、これが世界遺産登録の要因となりました。この他、シヴァ神の象徴である「リンガ（男根）」が祀られた部屋や、シヴァ神が半男半女の姿として描かれたレリーフや、踊るシヴァ神の彫刻も見ることができます。この石窟は、エローラ石窟群の中の第29窟と造りが似ているそうです。ぜひ見比べてみてください。

島から戻り、徒歩でにぎやかなストリートマーケットを探索して、ショッピングをします。
ムンバイ泊

13日目(3/6水)：ムンバイ --- オーランガバード(午前便)---**エローラ石窟**
(IndiGo 6E567 Mumbai05:30/Aurangabad06:25)

朝早く空港へお送りし、オーランガバード行きの飛行機に搭乗します。今日はオーランガバードから約30km離れたところにある世界遺産の**エローラ石窟**を訪れます。

エローラは34の石窟が台地の垂直な崖に掘られており、5世紀から10世紀の間に造られた仏教、ヒンドゥー教、ジャイナ教の石窟寺院や僧院などから構成されています。

もっとも古い時代のものは仏教の遺構で、それらは5世紀から7世紀の間に作られました。修行僧がここで生活しながら瞑想を行なったヴィハーラ窟には瞑想室を中心として庫裏(台所)、寝室などの付帯設備が作られています。また石窟には菩薩と聖者を従えた仏陀の像が掘られているチャイティア窟は今でいう仏殿や本堂です。

エローラは古代三大宗教が一同に共存する場所としては世界唯一で、一つの岩から削りだされた石窟寺院としても世界最大規模を誇ります。

またオーランガバード周辺の遺跡を見学します。ビービー・カー・マクバラは、ムガル帝国の第6代皇帝アウラングゼーブの妃、ディルラス・バーヌー・ベグムの廟墓です。タージ・マハルによく似ているが規模が小さいため「貧乏人のタージ・マハル」と揶揄される。

クイラ・アーク、スネハリ・マハルも訪れます。オーランガバード泊

14(3/7木) 日目：**アジャンタ石窟**

アジャンタ石窟群はワゴラー川湾曲部を囲む断崖を550mにわたって断続的にくりぬいて築かれた大小30の石窟で構成される古代の仏教石窟寺院群です。紀元前2世紀から1世紀にかけて建てられました。

グプタ朝時代(西暦5世紀から6世紀)には、さらに多くの豪華な装飾が施された洞窟が元の洞窟に追加されました。アジャンタ石窟寺院の美術的価値は後期窟に集中しており、入口柱や天井にミトゥナ像や飛天、蓮華や鳥獣の画像が描かれたりレリーフとして刻まれたりしている。また壁面

には本生譚（ジャータカ）などの説話図が描かれました。これらは、悟りを開いたものとしてのブツダが送った模範的生涯を表現する絵解きによって、よりいっそうの信仰心をもつよう巡礼に来た人々を教育する目的をもっていました。アジャンタの絵画や彫刻は仏教宗教芸術の傑作と考えられており、芸術的に多大な影響を与えています。オーランガバード泊

15日目（3/8金）：オーランガバード/ デリー（国内便） デリー→羽田（国際便）

(Air India AI-444 Aurangabad 07:40/Delhi 09:25)

空港へお送りし、デリー行きの飛行機に搭乗します。

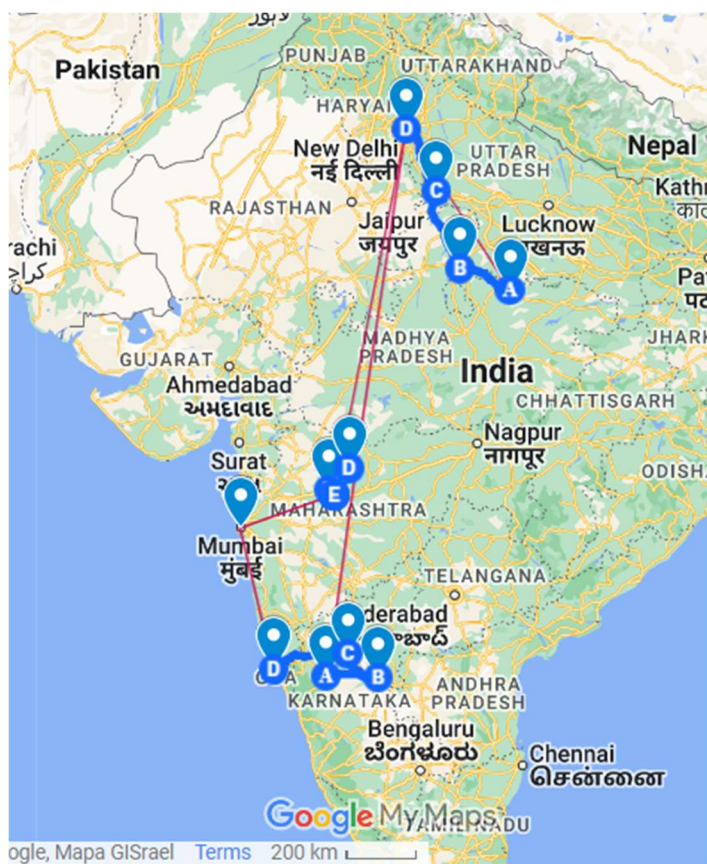
専用車でデリー市内ツアーを開始。午前中はタージ・マハルを建造したムガル帝国第5代皇帝シャー・ジャハーンによって建設された**レッド・フォート**、**ジャーマ・マスジット**を訪問。隣にあるデリーで最も大きな商店街・チャンディチョーク市場をリキシャに乗り見物。

午後、高さが72.5mありかつては世界で最も高いミナレットであった**クトゥブ・ミナール**、ムガル帝国第2代皇帝フマユーンの遺体が眠る**フマユーン廟**を見学します。

5時ごろ、デリー国際空港へお送りし、国際便にチェックインします。

JAL030 DEL 19:55→HND 06:35

16日目（3/9土）：羽田空港 早朝の6時35分着



<https://www.google.com/maps/d/edit?mid=1jymj79ySuv8T-8T U6zR-eRTXHpls00&usp=sharing>